

「劇場」や「演劇表現」はいつの時代にも“たった今”と厳しく相對します。向かい合うところから始まります。けれど追っても追っても「ボクたちの劇場」には辿り着けない。絶えず道の途中で立ち止まる。ロマンチックに旅人を気取っていると底知れぬ悪意を持った時代というヤツに足蹴にされ置いていかれる。

芸能や劇場表現のそもそもの一つに「語り」があります。どこからともなく祭りの場へやって来て、翌朝またたく間姿を消した芸能の民。この場合、劇場はまるで風のようにそこに留まらず正体不明です。

ところでその劇場表現にこだわり続けるボクたちは、声や身体・ウタや踊りや演技で語りたい「物語」を持っているのだろうか？ 語りたい（対面して欲しい）他者（ひと）がいるのだろうか？ 無論目に見えないものや理解不能の事柄で満ちているのがこの世界です。物語ることの不可能な話や不可視の他者と相（あい）見（まみ）えることだって多々あるでしょう。

ジタバタとしかし大真面目にそういう劇場に対し、共同して格闘を挑みませんか？ というのが、どうやらこの新しい演劇の学校「まつもと演劇工場 NEXT」だと考えます。

「昔々」で始まる小さな物語を侮ってはいけません。劇場は、鬼や精霊や小さな物語がロシア・アヴァンギャルドやアンチ・テアトルやシュールレアリスムといった表現の冒険たちと「達磨さんが転んだ」遊びをする時空でもあるのですから。

さあ「劇場」を探す「遊行」の旅へご一緒に！

加藤直